

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 令和元年度（2019 年度）河川工作物 AP 会議等の開催状況

以下のとおり、3 回実施した。

(1) 第 1 回会議（令和元年 7 月 16 日（火）～7 月 17 日（水）斜里町）

現地検討（ルシャ川治山ダム改良・河床路実証試験）及び室内会議を行った。

(2) IUCN 諮問ミッション（令和元年 9 月 24 日（火）～9 月 25 日（水）斜里町）

IUCN/SSG（サケ科魚類専門家グループ）のピート・ランド氏を招聘し、ルシャ川ダムの改良及び河床路の現地視察を実施するとともに意見交換を行った。

(3) 第 2 回会議（令和 2 年 1 月 28 日（火）札幌市）

IUCN ミッション招聘の実施報告、長期モニタリング調査報告、ルシャ川の取組（ダム改良及び河床路）、第二次検討ダムの改良について議論を行った。

2 第 43 回世界遺産委員会決議の対応について

1 の (2) のとおり

3 長期モニタリングについて

(1) 長期モニタリング実施計画に基づく調査

① 「淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況」

37 河川での調査が昨年度より 2 巡目となり、今年度は 8 河川の魚類・物理環境調査を実施。また、今年度より半島先端部の 5 河川の水温計測を追加した。

昨年度から実施している環境 DNA 調査を、今後も継続実施していく予定である。

② 「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数」（隔年実施）

ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川について、カラフトマスの遡上数と産卵床等について 8 月から 10 月にかけて調査した。

(2) 長期モニタリング計画の評価項目の評価

評価項目の評価作業の進め方等についての説明が環境省からあり、委員からは特段意見はなかった。

4 ルシャ川の取組について

(1) ルシャ川ダムの改良

今年度からダムの改良工事に着手し、第 2 ダムと第 3 ダムの幅各 40m を切下げ（H=0.8m）、第 1 ダムの下流部の落差対策を実施した。

来年度の工事は、第 3 ダム幅 40m の地中部までの撤去（H=1.7m）を予定している。

(2) ルシャ川河床路の状況

降雨による増水時に確認した実証試験では、流水による路体への影響はなかったものの、路盤材の流出による凹凸の発生で走行性が劣ることが確認されたことから、来年度にはこれを改善すべく凹凸部に 20cm 内外の石を練り積みで組んで間詰める改良を実施する予定である。

引き続き河床路の耐久性、走行性及び魚類の遡上環境等をモニタリングするため、調査を実施する。

5 第2次検討ダムについて

(1) オッカバケ川ダム改良

2基のダムのうち上流側の2号ダムについて、昨年度に引き続き人力作業により改良（H=1.5mの切下げ）を実施した。来年度は、切下げの最後となる改良（H=1.2mの切下げ）と併せて、引き続き河川環境等の定点観測を実施する。

また、下流側の1号ダムの改良を検討するにあたり、「河川変動予測ソフト（iRIC）」を活用したシミュレーションを行い、溪床の変動等による保全対象への影響を確認する。

(2) イワウベツ川ダム改良

改良方針検討のため、溪流の縦横断測量及び荒廃状況調査、保全対象の状況調査を実施した。改良対象のダムに老朽化が見られることから、堤体の安定度、強度等を把握するための調査を実施し、改良に向けた方針を検討する。

6 その他

特になし。